

- ① 病院長が語る地域医療の未来
 - ・診療科レポート「禁煙外来」
 - ・季節のお話/咳に気を付けよう
- ② 《世界糖尿病デー》名大病院における糖尿病治療の取り組み
 - ・ドクターG (ジェネラル) の診療日記
 - ・研修医紹介
 - ・ナディック通信
- ③ 名大病院アメニティのご紹介
 - ・退職挨拶
 - ・病院からのお知らせ/平成26年度鶴舞公開講座
 - ・七夕コンサート
 - ・禁煙のお願い
- ④ 次世代の手術室「ハイブリッド手術室」を設置しました
 - ・健康講座
 - ・ミニニュース
 - ・看護師募集
 - ・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。
 基本方針 ● 一.安全かつ最高水準の医療を提供します。 一.優れた医療人を養成します。
 一.次代を担う新しい医療を開拓します。 一.地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます



特集 TOPICS ①

病院長が語る地域医療の未来

高齢化の進展に伴い、大学病院へ求められる役割も変わりつつあります。情報のネットワーク化で意欲的に「地域医療」へ取り組んでいる石黒直樹病院長にお話を伺いました。



医療機関のネットワーク化
 近年、全国の医療機関で機能分化が進んでいます。大きな病院へ患者さんが集中したり、急性期の患者さんと長期療養が必要な患者さんが混在して入院し、本来の機能を十分発揮できないことが増えたため、大病院、中小病院、診療所などがそれぞれの特質に沿った医療を提供できるようにするのが目的です。

地域の病院と連携
 地域連携システムのモデル事業は、今年4月から始まっています。東区の名古屋通信病院の中に「名古屋大学医学部附属病院地域包括医療連携センター」を設置し、超

在宅の部屋が病室に
 在宅ネットワーク化は、名大病院と中間施設（地域の病院や診療所）、それに在宅事業者をICCTで結び取り組みです。たとえば、一人暮らしの高齢者が自宅で血圧や心拍数、血糖値などを測ると、そのデータは瞬時に全員のもとへ送られます。異常があったらまず在宅事業者が「大丈夫ですか」と声をかけに来る。そして異変が見つかれば速やかに病院へ搬送されることとなります。そのような仕組みの実現を目指しています。

急性期（救命が必要な時期）から亜急性期（回復期。病状が安定した状態）に入った患者さんに転院してもらいます。患者さんは名古屋通信病院で治療やリハビリを受け、退院後は安心して自宅療養ができます。

診療科レポート「禁煙外来」

循環器内科長 室原 豊明

「禁煙外来」開設時間（完全予約制）
 第1水曜日13:00~15:00
 第2水曜日13:00~15:00
 第3水曜日13:00~15:00
 第4水曜日13:00~15:00
 当院は特定機能病院のため、受診を希望される方は、かかりつけの医療機関を通じて、病診連携室にご連絡下さい。

喫煙という肺がんや呼吸器の病気をすぐに連想するかもしれませんが、心筋梗塞や狭心症といった心臓病のリスクとしても見逃すことはできません。地球規模での心筋梗塞の2大リスクは、高血圧と喫煙と言われています。

現在、一定の基準を満たして「ニコチン依存症」と診断されれば、保険適用で禁煙治療が受けられます。治療法は、以前主流であったパッチなどのニコチン代替療法に加え、飲み薬（禁煙補助薬）を使った治療が主に行われています。禁煙外来の期間は12週間、合計5回の外来通院で終了となります。

禁煙外来は、当院では呼吸器内科・総合診療科・循環器内科の合同チームで行っておりますが、この東海地方でも多くの医療機関に設置されています。ご希望の患者さんとはご相談ください。また医療関係者の方は、どうか禁煙のご指導や禁煙外来の おすすめをお願いします。

季節のお話



季節の変わり目は朝晩の冷え込みが予想以上に激しいことがあり、風邪をひくことがあります。風邪が治っても2カ月以上咳だけが続く方もいらっしゃるかもしれません。また、風邪をひいてないのに同じ時期に咳だけが長引くということもあるかもしれません。そうした方の中に、【咳喘息】と呼ばれる疾患がある場合があります。空気の通り道である気道がさまざまな刺激に対して過敏な状態になり、呼吸の際に咳を生じます。刺激の中には、室外の温度変化、タバコの煙や排気ガス、運動、飲酒、過度のストレス、しゃべる作業等があります。咳止め等ではあまり効果が無い場合に気管支拡張薬が有効な場合がありますので、かかりつけ医にご相談いただくのが良いでしょう。

咳に気を付けよう
 呼吸器内科 医局長 橋本 直純

《世界糖尿病デー》

名大病院における糖尿病治療の取り組み

糖尿病・内分泌内科長 大磯 ユタカ

医局長 恒川 新

現在、糖尿病はかつての結核のように世界中に蔓延し、心筋梗塞や脳梗塞のもととなる疾患として国際的な問題となっています。どのくらい多いのかといえば、日本では糖尿病あるいは糖尿病が疑われる人が合計2,150万人もおり、世界中には3.8億人もの患者さんがいると報告されています。このような中、1型糖尿病である1人の少女、クレア・ローゼンフェルトさんが2004年夏（当時17歳）にバングラデシユなどを旅して、糖尿病に苦しむ人々の現状を日記にして本を出版したことをきっかけに、「すべての人が糖尿病治療を受けられるように」と国際糖尿病連合が各国に決議を働きかけることとなり、2006年12月20日国連総会で、「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」が加盟192カ国の全会一致で可決されました。そしてインスリンを発見したフレデリック・バンティング先生の誕生日に因んで、11月14日が「世界糖尿病デー」として指定されました。以来、11月14日には全世界で各国の歴史的遺跡や建築物をブルーでライトアップし、名古屋においても名古屋城が毎年ブルーにライトアップされています。

2011年より当院では「質の高い糖尿病治療の実践」という達成目標のもとに、糖尿病・内分泌内科、

看護部、薬剤部、栄養管理部、リハビリテーション部の多職種で構成される名古屋大学医学部附属病院糖尿病サポートチーム（DST）が立ち上げられました。DSTは毎月1回委員会を開催し、医療スタッフを対象とした定期的な院内学習会に加え、臨床研究や糖尿病に関する医療業務を幅広い専門分野のスタッフによるチーム活動を生かして、迅速かつ質の高い医療の提供に貢献しています。

また、院内活動に加え、糖尿病について少しでも多くの方に知っていただくため、2011年より世界糖尿病デーに合わせて多彩な企画満載の市民公開講座を開始しました。この市民公開講座の開催は、体験コーナーや講演会を通じて糖尿病やその治療法について知っていただき、またセルフケア行動を援助することによって、より多くの方に健やかで豊かな人生を過ごしていただくことを目指しています。毎年約150名の患者

さんやそのご家族、また一般の方にもご参加いただき、本年度も世界糖尿病デーにあわせて11月15日（土）に当院で開催する予定です。糖尿病サポートチームは、少しでも多くの人に糖尿病に関しての知識を持つていただき、ひいては名古屋地区の糖尿病医療の発展につながるよう今後も活動していきたいと考えています。



世界糖尿病デーの公開講座終了後、名古屋大学医学部附属病院糖尿病サポートチーム（DST）記念撮影の様子

Dr. Gの診療日記

総合診療科 病棟医長 鈴木 富雄

ジェネラルとは「総合」という意味で、ドクターG（ジェネラル）とは、心臓、肺など人間の体の一つの臓器にとらわれず、患者さんを総合的に診させていただき医師、すなわち「総合診療医」のことである。これはそんなドクターGの診療日記である。

Dr 「今日はどうされましたか？」

患者Aさん（58歳女性） 「2ヶ月ぐらい前からですか、足が急にむくんできて、靴も履きづらいのです。近所の先生にかかっているのですが、内臓はどれも悪くないと言われ、原因がさっぱりわからなくて…」

Dr 「う～ん。そうですね…。ところで、今まで大きな病気になったり、現在何かの病気で飲んでいるお薬などありますか？」

患者Aさん 「はい、大きな病気はないのですが、以前から血圧が高くて血圧の薬を飲んでいました。」

Dr 「なるほど、では、お薬手帳を見せてもらえますか？」

ドクターGはAさんのお薬手帳を見ていましたが、あることに気付いたようでした。

Dr 「Aさん、むくみの原因がわかりました。しばらく私の言うとおりにしてください。これで良くなるはずですよ。」

この後、ドクターGはAさんにある指示をしました。2週間後の再診日には、Aさんは「むくみがなくなりました！」と喜んで報告されました。さて、診断は何だったのでしょうか？ 皆さんはおわかりになりますか？（答は3ページに）

研修医紹介

名大病院は、医師・歯科医師・薬剤師が同じ研修医室を使用し、多職種による相互連携の中で研修を行う環境にあります。

平成26年度は、新たに、医科研修医12名、歯科研修医8名、薬剤師レジデント7名が加わりました。

医療者として歩み始めたばかりで、まだまだ至らぬことばかりですが、患者さんに向き合い、患者さんを支え、患者さんに支えられ、日々新しい経験を重ねています。

今後とも、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。



（総合診療科鈴木先生による研修の後、記念撮影の様子）

Nagoya Disease Information Center ナディック通信



「広場ナディック」に7月から新しい書籍が入りました。特に小児の疾患（がん）に関する書籍を充実させました。また、皆さんが楽しめるようなDVDも増やしました。患者さんやご家族の知りたいニーズに対応し、ホッとひと息できるスペースです。ぜひ一度お越しください。

「広場ナディック」ではナディック勉強会を開催しています。6月～7月には、テーマは「手術後のリンパ浮腫～対処の手引き～」と題して自分でできるリンパ浮腫のケアを知ってもらう会や、「治療中だけど親でもあるあなたに…家族の物語を絵本にしませんか」と題して、親子のコミュニケーションをサポートする会を開催しました。

患者さんのニーズをキャッチして、楽しく、興味を持って勉強会にできるように心がけています。ご参加お待ちしております。

患者さんのニーズをキャッチして、楽しく、興味を持って勉強会にできるように心がけています。ご参加お待ちしております。

- ・場所 中央診療棟2階
- ・利用時間 平日10時～16時
(年末年始及びゴールデンウィーク除く)

TOPICS 3

名大病院アメニティのご紹介 Part 1

名大病院内にある飲食施設から、本号では、「ドトールコーヒーショップ」と「スカイレストラン ソレイユ」をご紹介します。

ドトールコーヒーショップ

当店は平成22年4月のオープン以来、多くのお客様にご利用いただいております。建物内のフードコートは、車椅子や点滴中の患者さんにもゆったりとご利用いただけるスペースを確保しております。

また、通常のドトール店は完全セルフサービス方式ですが、当店は、お身体の不自由な方やご年配の方に対し、お席までお届けする等のサービスも行っております。

今後も、通常メニューの他に季節メニュー等もご用意し、皆様のご来店をお待ちしております。



ミラノサンドB
(サーモンと小柱のマリネ)

オアシスキューブ外観



場 所：オアシスキューブ (外来棟正面入口横福利施設)
営業時間：(平日) 7時30分～19時30分
(土日祝) 9時～18時



スカイレストラン ソレイユ

最上階から、鶴舞公園の四季折々の景色を眺めながらお楽しみいただける、名古屋観光ホテルグループのレストランです。

人気は、魚料理又は肉料理をお選びいただけるランチ(11時～14時半)。その他にも、ふわふわ玉子のチキンオムライスや100%ビーフハンバーグ、焼き立てワッフル(14時～)等アラカルトメニューも豊富です。

特にランチタイムは混み合いますので、病棟13階の喫茶「つる」(11時～14時)も併せてご利用下さい。

場 所：病棟14階
営業時間：(平日) 8時～17時、(土) 11時～17時
※ラストオーダー：16時30分



店内の様子



ランチ(魚料理)

開講日時：平成26年12月6日(土)
13時30分～16時15分

会 場：名古屋大学医学部附属病院
中央診療棟3階講堂

対 象 者：一般市民の方
募集定員：200名(先着順)
受 講 料：無料

申込締切：平成26年11月21日(金)

【申し込み方法】

名大病院 HP から受講申込書をダウンロードし、郵送または FAX でお送りいただくか、お名前・ご住所・お電話番号をハガキまたは E-mail で申込締切日までに下記宛にお知らせ下さい。

- 定員になり次第、受付を終了させていただきます。受講できない場合のみご連絡いたします。
- 「受講申込書」に記載された個人情報は医学系研究科・医学部医学科、又は医学部附属病院が主催する公開講座の必要な業務を行うために利用いたします。

【お問い合わせ・申し込み先】

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部・医学系研究科
総務課 総務掛 市民公開講座担当 宛
TEL (052) 744-2040 / FAX (052) 744-2785
E-mail iga-sous@adm.nagoya-u.ac.jp

【その他】

駐車場の用意ができませんので、お越しの際は公共交通機関をご利用願います。

病院からのお知らせ

平成26年度鶴舞公開講座
「いつまでも頭スッキリ！」
暮らすためには

平成6年6月に、口腔外科学教授に就任すると同時に、診療科長として21年間、歯科口腔外科の臨床に従事してまいりました。その間、臨床他科の先生方、看護師さんをはじめ、多くのパラメディカル・スタッフの皆様にお世話になりました。ここに改めてお礼を申し上げます。

歯科口腔外科という診療科は、虫歯の治療から頭頸部がんで扱いますが、名大病院の歯科口腔外科に限っては、伝統的にドイツ・スイスなどの顎顔面外科の流れを踏襲した、顎骨外科を中心に診療をしてきました。なかでも培養幹細胞をつかった歯槽骨を再生するという世界で唯一の、再生医療の実践病院として知られるようになりました。

21年間という月日は、長いようでもあり一瞬のようにも感じます。皆様長い間お世話になりました。ありがとうございました。

(2014年9月30日)



歯科口腔外科長 教授 上田 実

退職挨拶

7月4日(金)に、七夕コンサートを開催しました。病院職員が患者さんと一緒に音楽を楽しむ企画です。最初は看護師のハンドベルチームによるハンドベル演奏ではじまり、続いて、いつも出演していただいていたフラダンスとバイオリン演奏は今回はお休みして、新しくクラリネット演奏、フルート演奏、ピアノ演奏、みんなで合唱の内容でした。

夏の到来を告げるさわやかな音楽会でした。次回はクリスマスコンサートを計画しています。

副看護部長 横山 恵

七夕コンサート



ドクターGの診療日記 の解答

診断：降圧剤による薬剤性浮腫

解説

Aさんは高血圧症でしたが、2ヶ月前にそれまでの降圧剤から別の降圧剤(カルシウム拮抗剤という薬)に変更されておりました。カルシウム拮抗剤は降圧効果も強く、副作用も少ないので、多くの患者さんが飲まれている薬ですが、時々下腿の浮腫を起こすことがあります。この場合は薬の影響でむくんでいるので、別の種類の降圧剤に変更すれば、すぐに治り心配はいりません。ドクターGはAさんに、降圧剤を変えてもらうように主治医にお願いするよう、指示をしたのですね。お薬手帳は役に立ちますね。皆さんも常に持ち歩くようにしてくださいね!

禁煙のお願い



患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施いたします。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

次世代の手術室 「ハイブリッド手術室」を 設置しました

患者さんの負担の少ない「ハイブリッド手術室」について、
西脇公俊副院長に伺いました。



室にはCアームという高機能の透視装置が備えられ、医師はより鮮明な画像を見ながら治療を行うことができます。

名 大病院は今年7月、「ハイブリッド手術室」を導入しました。エンジンと電気モーターの二つの動力源を持つ車をハイブリッドカーというように、ハイブリッド手術室では「手術」と「血管内治療」を組み合わせて同時に行うことができます。

血管内治療というのは、血管にカテーテル（細い管）を入れ、レントゲン画像を見ながら操作して、狭い血管を広げたり、ステント（血管内腔を保つための医療器具）を留置したりする治療です。

大動脈瘤などの場合、以前は体を大きく切って手術をする必要がありました。しかし血管内治療では、その一部から血管にカテーテルを入れて治療するため、メスを入れる部分がごく小さく、侵襲（患者さんの体への負担）が少ないというメリットがあります。

モニターで情報を共有

血管内治療には、血管を撮影する透視装置が必要です。以前は手術室に移動型の装置を持ち込んで行っていました。しかしハイブリッド手術

手術困難だった疾患も手術可能に

56インチの画面モニターは、心電図、心臓超音波画像、過去の放射線画像などのデータを同時に映せるほか、5つのサブモニターにも画像が出ます。手術に携わる外科医、麻酔医、看護師は、モニターを見ながら「今、何をしているか、何が必要か」という情報を共有し、チーム医療を進めることができます。

Cアームは可動性が大変大きく、ベッドも手術内容によって取り替えるなど、治療内容に最適な環境を作ることが出来ます。現在は血管外科、心臓外科、脳神経外科、整形外科、小児外科がハイブリッド手術室での治療を行っており、医師からは高い評価を得ています。



名大病院はこれまでも先進的な血管内治療に積極的に取り組んできましたが、ハイブリッド手術室の設置で、より高度で低侵襲の治療が可能になりました。そのため、手術が困難とされていた疾患や、合併症が多かったり体力的に手術が難しいとされていた患者さんにも治療の道が開けてきています。

健康講座

乳がんとマンモグラフィ

放射線科長 長縄 慎二

乳がんは日本人女性において最も罹患率の高いがんであり、ライフスタイルの欧米化で増え続ける傾向を示しています。その一方で、診断や治療の発展が目覚ましい領域でもあります。乳がんの検査には、発見のための検査、乳がんを診断するための検査、がんの広がりや進行度を調べる検査がありますが、画像診断は、このすべてに大きな役割を果たしています。

マンモグラフィは、乳房のX線画像検査で、主に、乳がんの発見や診断のために行われます。実際には、乳房を片側ずつ、上下または左右にはさみ圧迫して撮影をします。乳房を圧迫するのは、病変をより鮮明に写し出すとともに、厚みを薄くすることでX線の被ばく量を減ら

すためです。マンモグラフィでは、病変は腫瘍（しこり）や石灰化などの所見として描出されますが、特に、触知できない早期の乳がんを微細な石灰化像として発見することが有用とされています。一方で、乳腺量の多い人は、病変が乳腺と重なって隠れてしまい発見が難しいことがあります。最近では、乳腺の重なりを軽減するために、乳房を複数の方向から撮影して断層像を取得する乳房トモシンセシスという技術が開発され、当院でも導入を開始しております。



乳房トモシンセシス搭載のマンモグラフィ装置

看護師募集



愛しく、温かく、安全な看護の実践を目指して。

当院では看護師を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

● 看護部ホームページ
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/kango/index.html>



サマーコンサート



春のコンサート

ミニニュース

「コンサート」を開催しました。

中央診療棟2階リハビリ広場にて、4月15日（火）にピアノとソプラノのデュオによる「春のコンサート」を、そして、7月17日（木）に名古屋市立汐路中学校の弦楽合奏部による「サマーコンサート」を開催しました。いずれも、季節を感じる曲目や話題の曲目などが演奏され、皆さんと共に、楽しいひとときを過ごしました。